

万博公園探鳥会

2022年11月12日(土)

リーダー 田中宏・中筋好子・橋本昌宗・大矢麻由美
有賀憲介・橋本寿紀・平軍二(090-6901-1425)

1. 千里の鳥・万博の鳥「アトリ」

(写真 有賀憲介)



朝夕急な冷え込みから冬鳥を期待していた時、有賀氏より万博公園にアトリ到来の連絡があった。

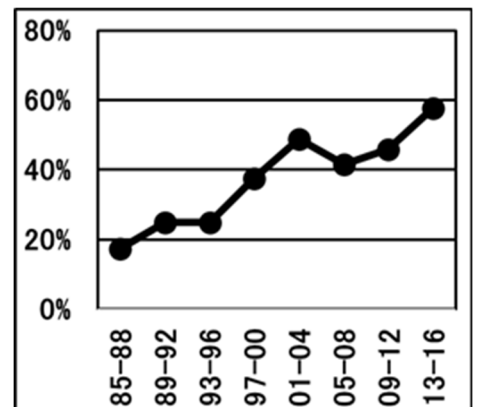
アトリはカムチャッカ・ロシア東部～欧州スカンジナビア半島までの亜寒帯で繁殖し、日本・中国～欧州の温帯で越冬、ユーラシア大陸を南北に移動する小鳥で、万博公園には冬鳥として毎冬渡来している。

アトリは体長(嘴～尾の長さ)16 cm、スズメや同科のカワラヒワよりもやや大きい小鳥。冬の万博公園にはカワラヒワも多く、アトリ・カワラヒワとも尾の先が同じ逆M字型であるが、カワラヒワの黄色味に対しアトリはオレンジ色味で、飛びながら鳴く声も違うので、アトリが渡来したとわかる。

アトリは群で飛ぶ鳥、「集鳥(あつとり)」からアト

リとなったともいわれているが、万博公園では多い冬には数百羽、少ない年でも数十羽を群で観察できる。大阪府平野部の他公園に比し、アトリが数多く観察できるのは、万博公園にアトリの主食としているアキニレの実が多いためである。

右図は万博探鳥会でのアトリの観察頻度、年々増えているのは、1970年大阪万博後に植樹されたアキニレが大きくなる



とともに、実が多くなったことも一因と思われる。しかも最近観察頻度が 60% 近くになっているのは、冬鳥として 10 月に渡来し、4 月までの 7 か月間も観察できる年のあることを示している。

アトリの漢字名に「鶺鴒鳥」と書かれるが、鶺鴒は狩りとのこと、狩りの時に狩り子が大勢いるように、アトリも林に大群でいるので付けられたとのことである。または「花鶺鴒」とも書かれるが、アトリ全体の色彩がカラフルであるためといわれている。

奈良時代に編纂された万葉集巻 20-4339 には「国巡る阿等利(アトリ)鴨鳧行き廻り……」とあり、「国から国へとめぐるアトリ・カモ・ケリのように……」とのこと、今から 1200 年前にアトリやカモは渡り鳥と歌われているのにびっくりする(但し、

ケリも渡り鳥に入っているのは？ですが)。

数年に一度であるが、数万羽～十数万羽とも言われるアトリの大群での渡来がニュースとなり、ヒノキなど針葉樹林や、草刈り後の田んぼなどでの観察が、放映されることがある。

今月写真のアトリ、2 羽ともほぼ同じ色合いで見分けにくいですが、胸のオレンジ色が鮮やかさから上の鳥が雄、下の鳥が雌と思われる。

今は雄雌とも頭の色が淡橙褐色で似ているが、来年 2 月頃になると雄の頭が真っ黒に、リリしく変身する。この変化は羽が生え変わるのではなく、羽の先端の淡橙褐色部が擦り切れて、真っ黒な基部が出てくるためといわれている。

2. 10 月探鳥会結果より 秋の渡りの最盛期、エゾビタキ・コマメビタキが何回も出て、キビタキ、そしてムシクイ SP が加わり小鳥 4 種、そして上空をハチクマも飛んだ。

今日は元 JR 西日本の新幹線開発責任者であった仲津英治氏に参加していただき、**500 系新幹線の開発秘話**をお聞きした。きっかけは、万博探鳥会の常連だった故矢島誠一氏が、1990 年大阪支部室内例会で「鳥の飛行について」講演された。仲津氏から「新幹線の高速化時の騒音問題に良いアドバイスがないか」と質問されたのに対し、矢島氏は「フクロウは自然界で一番静かに飛ぶことができる」と答えられたことが、きっかけとなっている。仲津氏は矢島氏など協力を得て

①フクロウの羽を模したパンタグラフ

②カワセミを模した先頭車両

の開発により、スピードアップ時の騒音対策が解消し、時速 300km で走行する 500 系新幹線が完成したことを話していただいた。

2019 年 3 月以降コロナ禍中止が多かったことから、2 年半ぶりに 30 名を超える参加者があったが、「渡りの鳥をたっぷり見て、鳥から生まれた 500 系新幹線について聞く」という鳥づくしの日、満足していただいたと思っている。

エゾビタキ(上)、カワセミ(下) →
(20221008 橋本昌宗)



新幹線 →
左より
0 系・100 系・300 系・
500 系・700 系・N700 系

(20221008 仲津英治)



3. 大阪自然史フェスティバル 2022 11/19～11・20 の案内

ここ2年コロナ禍で開催できなかった大阪自然史博物館での自然史フェスティバルが対面で開催されます。大阪支部では展示のほか、①講演会、②シンポジウム、③探鳥会を予定しています。



(大阪市立自然史博物館アクセス)
地下鉄御堂筋線「長居駅」3号出口
東へ徒歩約800m

- ①11月19日(土) 15:00～16:30 講演会
 - (第1部) 緊急報告 四国西南部に拡大する侵略的外来種「サンジャク」(中村滝男氏)
 - (第2部) 榎本佳樹と中西悟堂 (納家仁大阪支部長)

講演会

<第1部> 緊急報告 四国の西南部に分布を拡大する侵略的外来種サンジャク
講師: 中村滝男氏 (生態系トラスト協会会長)

<第2部> 榎本佳樹と中西悟堂
～野外鳥類研究の草分けと野鳥の会創始者 二人のつながり～
※榎本佳樹生誕150年記念事業2023プレ企画
講師: 納家 仁氏 (日本野鳥の会大阪支部長)

11月19日(土) 15:00～16:30
主催: 日本野鳥の会大阪支部、生態系トラスト協会、中西悟堂協会

- ②11月20日(日) 14:00～16:30 シンポジウム
夢洲・大阪湾岸の水鳥の渡来環境の保全・回復を目指して

シンポジウム 夢洲・大阪湾岸の水鳥の渡来環境の保全・回復を目指して

2025年大阪関西万博の開催地である夢洲の水鳥の渡来地としての重要性を改めて見つけ、夢洲を含めた大阪湾岸のシギ・チドリなどの水鳥の渡来環境をどのように保全し、回復していくかを考えます。


11月20日(日) 14:00～16:30 / 講師: 渡辺綱男氏 (IUCN-J会長)、上田恵介氏 (公益財団法人日本野鳥の会会長)、高田直俊氏 (公益社団法人大阪自然環境保全協会前会長)、納家 仁氏 (日本野鳥の会大阪支部長) ほか / 主催: 日本野鳥の会大阪支部、大阪自然環境保全協会

- ③11月20日(日) 午前 10:30～12:00
午後 13:30～15:00
はじめての鳥みたい(隊)! 探鳥会

はじめての鳥みたい(隊)! (探鳥会)

長居植物園内でバードウォッチングをします。野鳥を観察することが初めての方、まだまだ経験のない方も大歓迎です。

11月20日(日) 10:30～12:00、13:30～15:00
参加費: 無料(植物園入園料が必要) / 定員: 各回先着30名
集合場所: 長居植物園内 / 主催: 日本野鳥の会大阪支部



A会場	ネイチャーホール	B会場	ポーチ 花と緑と自然の情報センター2階	C会場	ナウムホール 大阪自然史博物館1階
骨好き中学校教員の会	A1	御菓子司御禮	B1	アドリエジッタ	C1
はなはな団	A2	PuPuPu Petit a Petit	B2	まーりん工房	C2
大阪エロソーの会	A3	協栄産業株式会社	B3	オープンゼザミ	C3
兵庫県立淡路景観園芸学校 (兵庫県立大学淡路キャンパス)	A4	ハウ/写真産業株式会社	B4	manumo	C4
西宮市員類館	A5	株式会社ケンコートキナー	B5	くまびと餅屋(株) HIGASHI	C5
関西バードカービングクラブ	A6	興和プロダクツ株式会社	B6	芽活.com/INIGATA企業	C6
日本バードカービング協会	A7	PIZZAROTOLO	B7	segasworks	C7
大阪形造おかわり	A8	野鳥生活	B8	ZUCKER	C8
きの好きのためのキノコ展	A9	大阪立大学電磁学会ジュラシックカー君	B9	お船のもの	C9
淀川水系イタセバシ保護市民ネットワーク	A10	丹波電化工「ちーたん」	B10	やんぼる-いちむし堂	C10
特定非営利活動法人すいた市民環境協議会	A11	一般社団法人小清水町観光協会	B11	AROMA TRUNK	C11
認定NPO法人緑の地球ネットワーク	A12	ジュゴン保護キャンペーンセンター	B12	NOTARI	C12
大阪市エゴラティア大阪事務局	A13	piyopyyobrand	B13	HakuKeiko	C13
公益財団法人大阪みどりトラスト協会	A14	Scientific Idea	B14	BIRD CREATE	C14
大阪府	A15	認定特定非営利活動法人大阪自然史センター	B15	Fenfir-ulfr	C15
ななわホネホネ団	A16	株式会社FOR	B16	森の工房ほんどり	C16
てごぼさんとくぶつかん	A17	大阪市立自然史博物館の会	B17	ぎんべーのしっぽ	C17
大阪石友会	A18	さえずり本舗	B18	木象歌ごみつ亭	C18
地学団体研究会大阪支部	A19	うみハマ～深い海にハマる～	B19	鶴見緑地カワセの会	C19
錦が家の自然を守る会	A20	びわこベース	B20	友の会読書サークルBooks	C20
堺自然観察会	A21	堺家市観光協会	B21	関西自然保護機構	C21
公益社団法人大阪自然環境保全協会	A22	知床ウロ海域環境保全協議会	B22	ジュニア自然史クラブ	C22
池田・人と自然の会	A23	谷口高司鳥絵工房	B23		
TEAM魚つしよ!	A24	公益財団法人日本野鳥の会	B24		
きしだ自然環境・きしだ自然友の会	A25	日本野鳥の会大阪支部	B25		
芥川興業部もあ(あひあ芥川)	A26	近大ホネホネ団(南アケアタイム)	B26		
鳥類保護調査グループ-関西	A27				
日本野鳥の会京都支部	A28				
枚方いきもの調査会	A29				
特定非営利活動法人日本バードレスキュー協会	A30				
NPO法人共生の森	A31				
伊丹市昆虫館	A32				
南大阪昆虫愛好会	A33				
堺自然ふれあいの森	A34				
伊丹市昆虫館友の会	A35				
特定非営利活動法人日本チョウ類保全協会	A36				
錦織公園フレスター	A37				
特定非営利活動法人西日本自然史系博物館ネットワーク	A38				
NPO法人堺の子どもたち地本を	A39				
浜寺公園自然の会	A40				

出展団体

出展団体(上表)は小さくて見えませんが、

- ・日本野鳥の会(本部)
- ・日本野鳥の会大阪支部
- ・日本野鳥の会京都支部
- ・大阪自然環境保全協会
- ・バードレスキュー協会
- など環境団体の他、

望遠鏡・双眼鏡メーカーなどを含めた88団体が出展しており、一日中楽しめます。

4. 万博公園探鳥会観察種 チェックリスト

種名		4	5	6	7	8	9	10	11
		9	14	11	9	27	10	8	12
1	24 オシドリ								
2	26 オカヨシガモ	1							
3	27 ヨシガモ								
4	28 ヒドリガモ								
5	30 マガモ		3						
6	32 カルガモ	24	14	2	8	7	8	12	
7	35 オナガガモ								
8	38 コガモ								
9	42 ホシハジロ								
10	46 キンクロハジロ								
11	58 ミコアイサ								
12	62 カイツブリ	9	8	3	14	5	4	6	
13	74 キジバト	13	12	3	5	2	5	7	
14	78 アオバト	1	2						
15	127 カワウ	9	11	5	2	3	3	3	
16	139 ゴイサギ								
17	144 アオサギ	1	1	1	2	2	2	1	
18	146 ダイサギ	1							
19	148 コサギ		1					1	
20	174 バン					2	2		
21	175 オオバン	1							
22	187 ツツドリ								
23	192 アマツバメ								
24	195 ケリ								
25	202 イカルチドリ								
26	203 コチドリ								
27	219 タシギ								
28	244 イソシギ								
29	286 ユリカモメ								
30	339 ミサゴ								
31	340 ハチクマ							1	
32	342 トビ	2							
33	354 ツミ								
34	355 ハイタカ								
35	356 オオタカ								
36	357 サシバ						1		
37	358 ノスリ								
38	383 カワセミ		1	2	1	3	2	3	
39	390 コゲラ	6	6	5	1	4	4	2	
40	401 チョウゲンボウ	1				1			
41	407 ハヤブサ								
42	412 サンショウクイ								
43	418 サンコウチョウ								
44	420 モズ							7	
45	435 ハシボソガラス	4	17	12	18	14	7	6	
46	436 ハシブトガラス	127	23	13	31	33	54	43	
47	442 ヤマガラ	6	6	5	4	11	13	11	
48	445 シジュウカラ	36	24	10	7	14	23	20	
49	457 ツバメ	10	15	8	7	4	1	7	
50	459 コシアカツバメ		3			1	3		

種名		4	5	6	7	8	9	10	11
		9	14	11	9	27	10	8	12
50	463 ヒヨドリ	27	8	6	12	9	11	43	
51	464 ウグイス	9	12	3	5			1	
52	465 ヤブサメ								
53	466 エナガ	4	10	6	4	7	2	27	
54	477 メボソムシクイ								
55	479 エゾムシクイ								
56	480 センダイムシクイ								
57	485 メジロ	25	6	8	20	19	29	17	
58	492 オオヨシキリ								
59	501 ヒレンジャク								
60	506 ムクドリ	23	18	9	88	2		2	
61	508 コムクドリ								
62	514 トラツグミ								
63	521 シロハラ	22							
64	522 アカハラ	2							
65	525 ツグミ	26							
66	530 コマドリ								
67	536 ルリビタキ								
68	540 ジョウビタキ								
69	542 ノビタキ								
70	549 イソヒヨドリ					2	2		
71	552 エソビタキ							3	
72	554 コサメビタキ						4	8	
73	558 キビタキ		5	3			2	1	
74	561 オオルリ	1							
75	568 ニュウナイスズメ	2							
76	569 スズメ	31	49	33	102	33	48	42	
77	573 キセキレイ					1		4	
78	574 ハクセキレイ	4	4	1	3	34	28	6	
79	575 セグロセキレイ	2	2	3	3	3		1	
80	580 ビンズイ								
81	584 タヒバリ								
82	586 アトリ	12							
83	587 カワラヒワ	21	16	14	46	1	1		
84	600 シメ	3							
85	602 イカル	2		1		1		2	
86	610 ホオジロ								
87	617 カシラダカ								
88	624 アオジ	7							
89	ドバト	○	○	○	○	○	○	○	
90	ソウシチョウ	2							
91	カッコウSP								
92	ムシクイSP					1	1	2	
93	タカSP								
94									
種類数(種)		37	27	24	22	28	26	30	
個体数(羽)		477	277	156	383	219	260	289	
天候		晴	晴	曇後雨	晴時々曇	曇時々晴	晴	晴	
参加者数(人)		5	12	16	10	5	16	33	

次回 12月10日(土) 9:30 自然文化園中央口 (日本野鳥の会 HP より fomuzs 方式でお申し込みお願いします。)